

〒060-0041
札幌市中央区大通東 2 丁目 15-1
サラサビル 4F
TEL 011-219-0112 FAX 011-219-0113
ホームページ <https://snet21.jp/>



子どもを健康被害から守ろう

～ストップ！集団フッ化物洗口～



市民ネットワーク北海道は、柔軟剤などの香料や「集団フッ化物洗口」等による健康被害から子どもたちを守るため、市民団体とともに要望書提出など活動をすすめています。

札幌市は2022年6月「札幌市歯科口腔保健推進条例」を制定するとともに、24年10月より小学校4校でむし歯を防ぐ目的としてフッ化物洗口のモデル事業を始め、3年後、全ての市立小学校で実施するとしています。しかし、安全性や有効性には専門家や歯科医師でも賛否両論があることから、学校等で集団で行うべきではありません。

フッ化物洗口とは？

札幌市のフッ化物洗口モデル事業では、週1回、フッ化ナトリウムをうすめた洗口液10mlを口に含み、飲み込まないようにならざるで1分間うがいを行います。

WHO(世界保健機構)では、「フッ化物洗口は6歳未満には禁忌(絶対にやってはいけない)」とされており、洗口



「フッ化物洗口を知っていますか？シールアンケート」と「水でフッ化物洗口体験」を実施。「1分間って意外と長いね」「飲んでしまいそう」との感想がありました。

液を飲み込んだ場合、嘔吐や腹痛、下痢などの急性中毒が起こることがあると専門家が指摘しています。すでに実施している道内の自治体では、誤飲や洗口後の体調不良などの報告があります。また、消毒液や使用期限切れの洗口液で洗口を行ってしまうなどの事故も発生しています。

リスクについての丁寧な説明を

学校でのフッ化物洗口を「する」「しない」を子どもや保護者が選択するための情報が不足していることから24年6月、札幌市長と教育長に対し、メリットだけではなくリスクについても丁寧に説明すること、救急体制の確立、子どもや保護者の判断で選択できること、また、フッ化物洗口を始めた場合でも、いつでもやめられることなどを市民団体とともに要

子どもたちが安心して学び過ごせる学校に

札幌市においては、12歳の永久歯でむし歯を経験した歯の本数は12年度1・34本から、17年度1・06本、22年度0・74本と減っています。「集団フッ化物洗口」を行っていないと、歯みが



「集団フッ素洗口」問題を考える市民の会が札幌市に要望(2024年6月18日)

望しました。札幌市からは「急性中毒のリスクについて説明する」「フッ化物洗口を『する』と選択したあとでもやめることができる」との回答がありました。

モデル校4校のうち対面で説明会を行ったのは1校、3校は保護者に説明動画を配信したのみで子どもや保護者の不安に寄り添ったものではありません。「洗口をやめたい」と思っても学校で集団で行うことなので、言い出しづらい」との声も市民ネットワークに寄せられています。

き習慣や食生活に気をつけている効果ではないでしょうか。子どもたちが安心して学び過ごす学校において、健康被害が懸念される「集団フッ化物洗口」は必要ありません。

寄稿

フッ化物洗口によるむし歯予防について

清水 央雄

(日本フッ素研究会共同代表、
歯科医師)



日本フッ素研究会

フッ素(フッ化物)は安全で、虫歯を減らしてくれるものだと聞かされ、それを信じている人は多いと思います。ところが、信じられないかもしれませんが、それは大きな間違いなのです。

フッ素で虫歯は減るのか？

アメリカで間違った学説(フッ素が虫歯を減らす)が1930年代に生まれ、後になって間違いだつたとわかったのですが、一度「フッ素は虫歯予防になる」と言ってしまうと今さら後に引かず、古い研究データを持ち出して、いつまでも虫歯予防になると主張しているのです。

フッ素の急性毒性

かつての急性中毒量は甘く見積もられ、「洗口液を全部飲み込んで大丈夫」と考えられていました。ところが、その後、日本においても

海外においても各地で起こったフッ素中毒の実例では、洗口液の半分の量でも中毒することがわかったのですが、中毒量は見直されず、危険事態が続いています。

フッ素の慢性毒性

年々フッ素がいろいろな病気を起すことがはっきりしてきています。フッ素を多く摂取すると脳神経に悪影響があり、IQが下がったり、発達障害やADHD、斑状歯、

甲状腺機能低下、骨硬化症、骨折、がん、糖尿病などが増えます。

アメリカでの研究でフッ素を多く摂取した母親から生まれた子どもは自閉症が多いことが24年5月に発表され、アメリカでは大きく報じられました。

注意すべきこと

フッ素洗口はもちろん、フッ素塗布やフッ素入り歯みがき、フッ素入りガムも危険なので使用しないようにしましょう。24年8月にアメリカの保健省(毒性プログラム)は、フッ素は危険だとし、トランプ政権はフッ素水道添加の中止などを施策にあげています。

プロフィール(しみず 央お)

1959年岩見沢市(栗沢町)生まれ
岩見沢東高校・日本歯科大学卒業
1991年開業

札幌市の「フッ化物洗口」モデル事業と近隣自治体の実施状況

区	学校名	学年	時間	場所	実施状況
中央区	二条小	5・6年生	帰り	教室前廊下	【岩見沢市】2012年～ 【恵庭市】13年～ 【北広島市】16年～
北区	太平南小	全学年	帰り	体育館	【小樽市】24年9月 【江別市】24年10月～
東区	伏古小	2・3年生	給食後	教室前廊下	【石狩市】25年度～
白石区	米里小	全学年	給食後	教室	



「子育て中のみなさんへ 集団フッ化物洗口が始まる前にフッ素について知ってほしいこと」

フッ素洗口は虫歯を予防する効果があるとされていますが、一方で急性中毒や慢性毒性のリスクがあります。特に子どもは誤飲の危険性が高いため、十分な説明と同意が必要です。

2024年6月、札幌市はモデル校4校でフッ化物洗口の実施を開始しました。しかし、市民団体からは「安全性が不明」「説明不足」といった声が続いています。

市民ネットワーク北海道では、市民の声を代弁し、学校や自治体に適切な対応を求め続けています。